いわてグルージャ盛岡

いわてグルージャ盛岡・子ども食堂への支援　1/2

Story

スポーツの力、Jクラブの力をつかって、こども食堂を通じた新しい密（シン・密）を地域に共創する。その理念に共感し、Jリーグ「みんなのシン・みつプロジェクト」に参加し、2020年より岩手県にある子ども食堂への支援を開始しました。 取り組みに関しては4ステップの段階を作り、シーズンを通しての活動を目指しました。【ステップ1】子ども食堂を知る【ステップ2】興行を通してクラブを知ってもらう【ステップ3】子ども食堂に参加する【ステップ4】地元企業を子ども食堂に巻き込む【ステップ1】子ども食堂を知る クラブとしてまず初めに取り掛かったのは「子ども食堂を知る」と言うところでした。“子ども食堂”と言うワードは知っていましたが、実際にどのような人が関わっていて どのような活動をしているのか？そう言った子ども食堂の現状を知る為に、まずはクラブとして子ども食堂のイベントに参加させて頂きました。イベントに参加し子ども食堂の現状と課題、そして子どもの居場所づくりの重要性と必要性を学びました。【ステップ2】興行を通してクラブを知ってもらう 子ども食堂の現状を知った私たちは、次のステップとして「クラブを知ってもらう」 活動を行いました。県内の子ども食堂利用者の親子を興行に招待し、 試合観戦と同時に選手との交流、バックヤードツアーや職業体験などを体験して頂き、 Jリーグを使ったコロナ禍での思い出作りを行いました。参加されたお子様からは「みんなと一緒にごはんが食べられていつも以上に美味しく感じた」「サッカー場に初めて来たけど、いろんな仕事が体験でき、試合も見られてファンになった。また来たい」などの感想をいただきました。【ステップ3】子ども食堂に参加する ステップ3からは本格的に子ども食堂の支援に係ることを行っていきました。 まずはJリーグのスポンサーであるヤマザキビスケット様に物品提供のお願いをしました。 同社には子ども食堂で使用するお菓子の提供のご依頼をし、ルヴァンプライム400個を寄付頂き、提供頂いたお菓子を私達が県内の各子ども食堂に配布する「キヅールと一緒にお菓子を食べよう」企画を実施し、この活動を通して月2～3回のペースで子ども食堂の活動に参加させて頂きました。【ステップ4】地元企業を子ども食堂に巻き込む 子ども食堂支援の最終段階として、このプロジェクトを「持続可能な取り組み」にするべく、 地元企業を巻き込んだ活動を行いました。 まずはチームスポンサー様に活動内容を説明し、子ども食堂やフードパントリーの活動支援をお願い致しました。 フードパントリーでは食料確保が進まない中、活動に共感いただいた企業様から食料提供をいただき、クラブがハブとなり各子ども食堂へ食料を届けました。 2021シーズンは活動範囲を広げ、更に関係者を増やし、県内での子どもの居場所をより多く作る、そして少しでも貧困をなくすべく活動を続けていきます。

活動詳細情報はこちら

https://grulla-morioka.jp/tab03_event/news0811-03/

https://grulla-morioka.jp/tab_09_hometown/news1006-03/

https://grulla-morioka.jp/tab_09_hometown/news1021-03/

© 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ

いわてグルージャ盛岡
いわてグルージャ盛岡・子ども食堂への支援　2/2

活動場所

雫石七ツ森地域交流センター、黒沢尻西交流センター、
花巻市総合福祉センター、いわぎんスタジアム等

カテゴリー（SDGs）／取り組みテーマ

協働者

企業、NPO

協働者名

NPO法人まちサポ雫石、こども食堂キッチンすまいる、
花巻ロータリークラブ、ヤマザキビスケット株式会社、
有限会社福田パン、株式会社美多加堂、ぬくまる食堂実行委員、
認定特定非営利活動法人インクルいわて、
株式会社ギンビス、株式会社ウノー・インダストリー、
株式会社みちのくクボタ

© 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ